

坂出市府中町にある讃岐国府跡が国の史跡に指定されました。

国府は古代国家が成立した奈良時代に地方を支配するための拠点として、国ごとに置かれた役所です。

香川県埋蔵文化財センターは、平成 21 年度から讃岐国府跡探索事業を行い、平成 24 年度に国府跡がこの地にあることを確定させました。その後も讃岐国府跡の解明に取り組み、その成果が国史跡の指定につながりました。

今回の「いにしへの讃岐」ではこれを記念して、讃岐国府跡のかつての姿を紹介します。

讃岐国司 菅原道真

菅原道真は 886 年から国司として讃岐に赴任し、政務を行いました。彼の漢詩集「菅家文草」には、讃岐国府での日々や地元の人々との交流、国府周辺の風景などが多く詠まれています。

また、その一首には「開法寺は府衙の西に在り」と記されており、讃岐国府跡の所在地を追求する上で重要な手がかりとなっていました。



▲菅原道真
(橋本武生氏 作画)

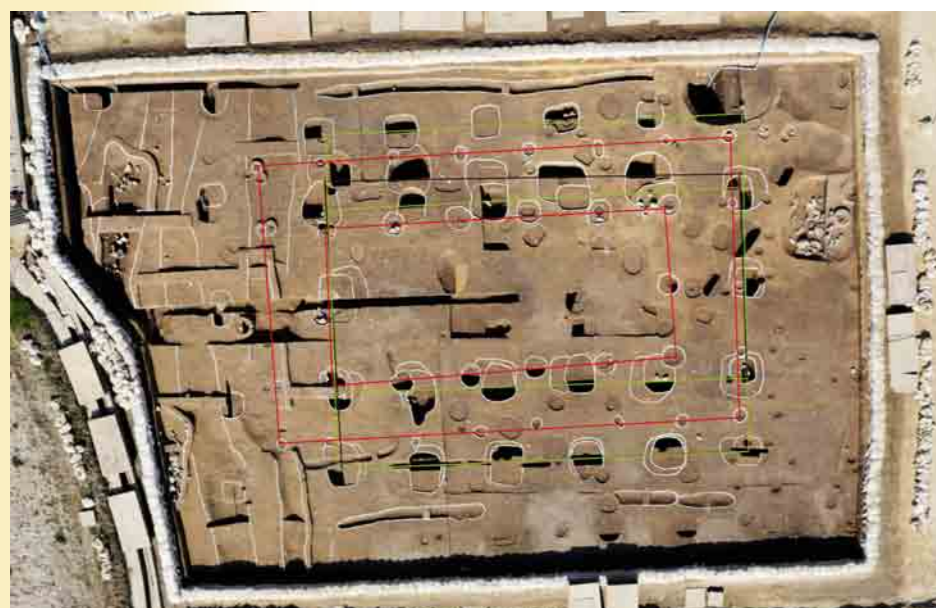
讃岐国府跡の姿

讃岐国府跡では発掘調査により、整然とならぶ大型建物群や屋根に葺かれた大量の瓦、国府に勤務した役人たちが仕事で使った硯や墨書土器、釉薬をかけた美しい食器など、かつての繁栄を示す多数の遺構・遺物が見つかりました。

これらの様相は県内で見つかった郡衙跡や集落跡とかけはなれたものであり、地域の支配拠点として整備された状況を示すとともに、国府に勤めた役人たちの姿を彷彿させます。

【①大型建物跡】

讃岐国府跡で見つかった建物跡のうち、最も大きなものの面積は約 80 m²あり、古代讃岐国の建物跡の中でも有数の規模を誇ります。また、これを含む建物群は塀、溝などにより区画された一辺 100mほどの範囲内に棟通りや柱筋を揃えて規格的に配置されました。



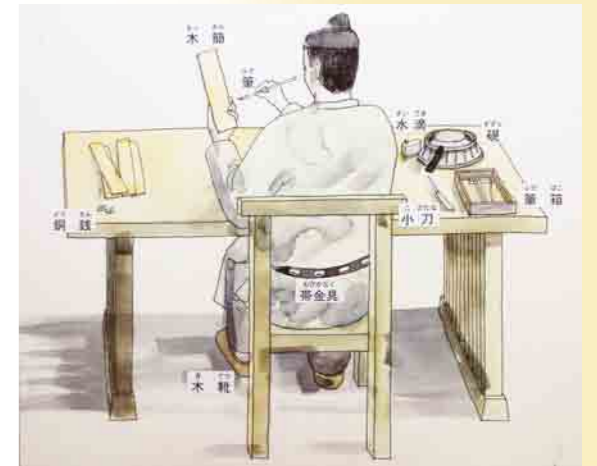
▲出土した軒丸瓦

◀上空からみた大型建物跡

【②役人たち】

讃岐国府跡では、多量の硯^{すずり}が出土しました。これは役人たちが仕事（税の取り立てや耕地の管理など）のために日常的に文字を使っていたことを示唆しています。また、役人が使用したと考えられるベルトの帯飾り（帯金具）も見つかりました。

文字を書く役人▶



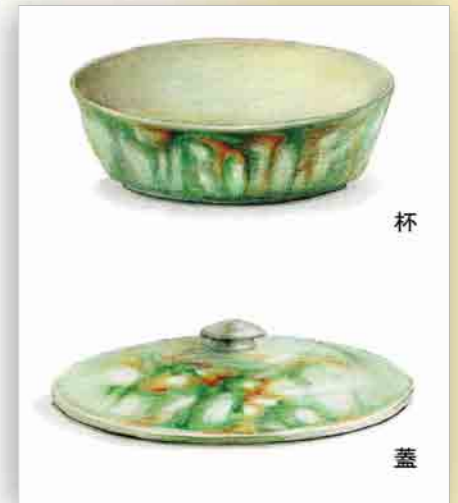
【③希少な品々】



▲金銅製龍頭

龍をモチーフとした金銅製品です。旗やのぼりなどの吊り具として利用された可能性があります。国府跡で見つかった例は他に知られていません。

ソケット状の空洞^{くどう}
(木の柄などを差し込む?)



▲奈良三彩

緑、白、褐色の釉をかけた高級食器です。県内では他に大浦浜遺跡（坂出市）でしか見つかっていません。

トピックス ミステリーハンターの活躍

ミステリーハンターとは、讃岐国府跡探索事業にともにとりくんだボランティア調査員です。讃岐国府跡の発掘調査、地名調査、地形調査、古墳測量などの調査だけでなく、讃岐国府跡周辺を紹介するまちあるきや展示など多岐に渡る活動を行いました。

今回の国史跡指定も、彼らの活躍なくしては語れません。



▲讃岐国府跡の発掘調査



▲新宮古墳の測量調査